

大阪透析研究会抄録の記載要項

大阪透析研究会

1. 本文の書き方

「研究報告」では、目的、対象と方法、結果、結論などと項目建てをして記載する。「目的」などの項目名は、改行して1字空けずに【目的】などと括弧を使うか、あるいは、改行して1字空け、項目の後に「:(コロン)」を入れて記載する。

「症例報告」では、最初に「症例。〇〇歳男(女)性。」と書き、その後、主訴、病歴、考案、結論などを記載する。「方法」などの項目を建てるときは、改行して1字空けずに【方法】などと括弧を使うか、あるいは、改行して1字空け、項目の後に「:(コロン)」を入れて記載する。

2. 記載例

・ 例1 (研究報告)

透析膜・・・・・・・・・・の影響

吉田 充¹、富永真弓²、岡 始³、・・・・・・・・

大阪透析病院泌尿器科¹、同 外科²、日本診療所看護部³、・・・・

【目的】透析膜が・・・・・・・・・・する影響を解明することを目的とした。

【対象と方法】安定した維持透析患者 25 例（男性 10 例、女性 15 例）と健常成人 35 名を対象として、・・・・・・・・。血液中の・・・・は・・・・を用いて測定し、・・・・・・・・

【結果】今回の透析膜は・・・・・・・・・・しかし、これらの・・・・・・・・

【結論】・・・・・・・・

・ 例2 (症例報告)

腎・・・・を合併し、・・・・した透析患者の1例

吉田 充¹、富永真弓²、岡 始³、・・・・・・・・

大阪透析病院泌尿器科¹、同 外科²、日本診療所看護部³、・・・・

症例。58歳男性。・・・・を目的として来院、入院した。既往歴に虫垂切除術（35歳）がある。・・・・・・・・その後、・・・・・・・・軽快した。

考案：本症例は・・・・・・・・。一方、・・・・との合併例は・・・・・・・・

結論：・・・・・・・・

3. 用語

用語は、原則として当用漢字と現代仮名使いを使用し、以下のものは下記のように統一する。

① 送り仮名

(1) 行(な)う → 行う

② ひらがなを使用

(1) 尚 → なお

(2) ～にも拘わらず → ～にもかかわらず

(3) 我が国 → わが国

(4) 我々 → われわれ

(5) 又 → また

(6) 私達 → 私たち

(7) 更に → さらに

(8) 1年毎の → 1年ごとの

(9) 及び → および

(10) 如く → ごとく

(11) 益々 → ますます

(12) ～が見られない → ～がみられない

(13) 占める → しめる

(14) 出来る様に → できるように

(15) ～と共に → ～とともに

(16) それ故 → それゆえ

(17) ～等 → ～など

③ 漢字を使用

(1) とくに → 特に

(2) したがって → 従って

(3) はじめての～ → 初めての～

(4) はじめから → 始めから

(5) ～がえられる → ～が得られる

④ 読点を挿入

しかし、 また、 従って、 特に、 一方、

⑤ その他

(1) 年令 → 年齢 ～才 → ～歳

(2) から、より、よって、の使用：

場所や時間は「から」を用いる。「より」の使用は比較の場合のみとする。

理由や手段は「～によって」と記載する。